地域への影響を小さくするための構造の検討状況（東名ジャンクション）

「対応の方針」

〇ジャンクション構造については、現地の状況を把握するための測量や詳細な検討を行うための地質調査を実施し、その結果及び検討会で頂いた意見などを踏まえ、地域への影響が小さくなるようジャンクション構造の技術的な検討を実施します。

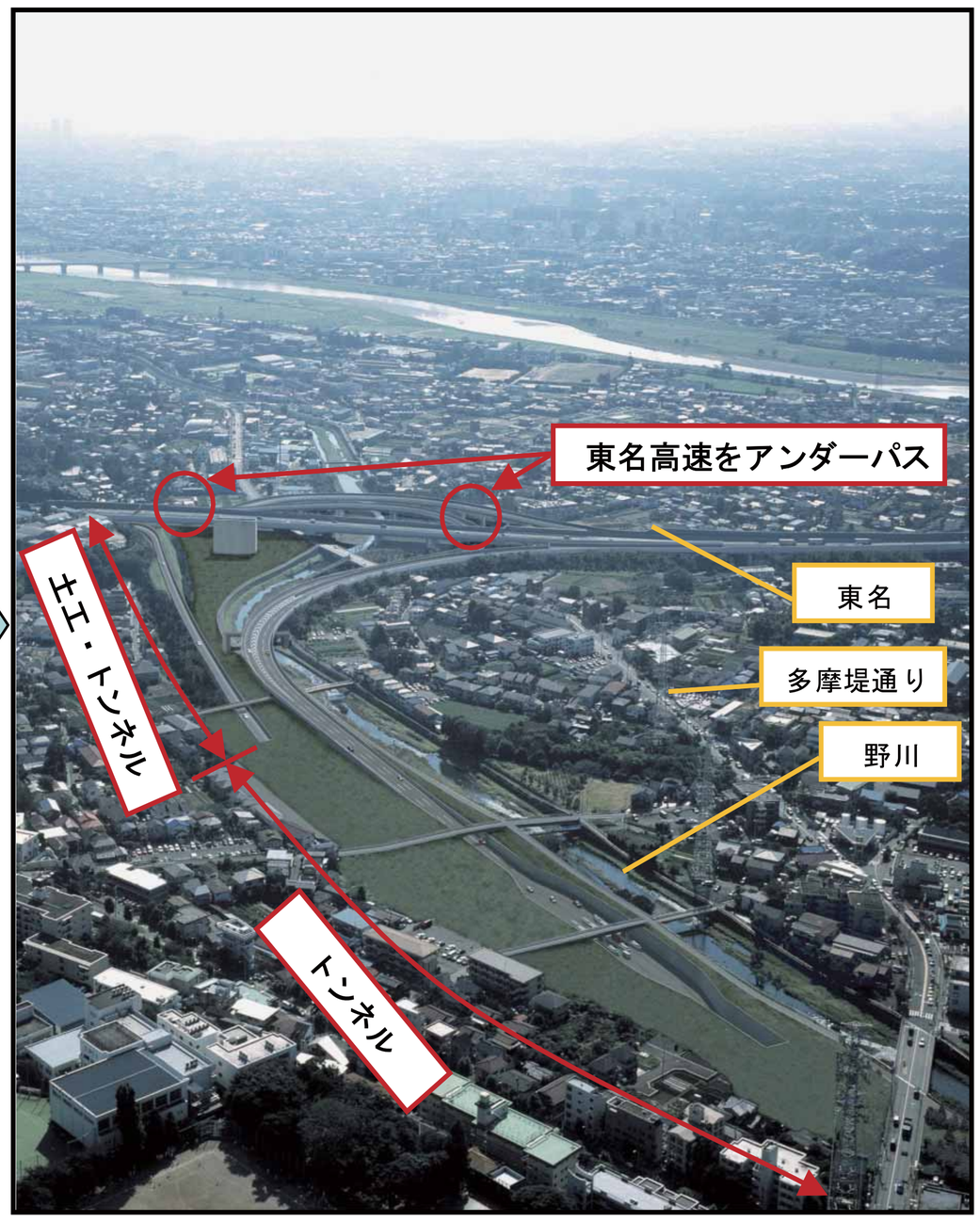
● これまでの調査

・現地の状況を把握し、詳細な設計を行うための測量や地質調査を平成２２年７月までに実施しました。

● 現在の検討状況(イメージ図)

【現計画】東名本線上でランプが交差

【現在の検討状況】東名本線下でランプが交差



検討の基本方針

●地域課題検討会などで頂いた意見を踏まえ、東名高速をオーバーパスしていた２つのランプ※について、都市計画の範囲内で、東名高速をアンダーパスに変更し、地域への影響が小さくなるようなジャンクション構造を検討しています。

※外環本線から東名下り（川崎方向）へのランプと東名上り（川崎方向）から外環本線へのランプ

●外環本線から東名下り（川崎方向）のランプを東名高速のアンダーパスに変更することで、一部、掘割構造からトンネル構造に変更することが可能となります。

●ランプをアンダーパス化することで、環境への影響を小さくしたいと考えています。

●上部利用については、今後、地域特性や世田谷区の「東名ジャンクション周辺地区街づくり方針」に配慮しつつ、地域のみなさまの意見を聴きながら、世田谷区とともに検討します。

〔ジャンクション・インターチェンジ名称は仮称、供用区間は除く〕

機能補償道路の検討状況
（東名ジャンクション）

「対応の方針」

〇東名ジャンクション部の事業実施に伴い、野川に架かる大正橋、茶屋道橋、水道橋や喜多見地区など現況のコミュニティに影響が生じる箇所については、環境施設帯などを活用した分断道路の機能を補完する道路を確保します。

〇分断道路の機能を補完する道路の整備にあたっては、行き止まり道路の状況、周辺の生活道路の状況を把握したうえで、地域のみなさまの意見を聴きながら、世田谷区とともに検討し、それまでの利便性の低下を生じないよう機能確保に努めます。

〇喜多見小学校など周辺の通学路や生活動線及びバス路線の確保について、現状を十分把握し、世田谷区と一緒に地域のみなさまの意見を聴くとともに、バス事業者など関係機関と協議しながら、機能の確保を検討していきます。

● 現在の検討状況（イメージ図）

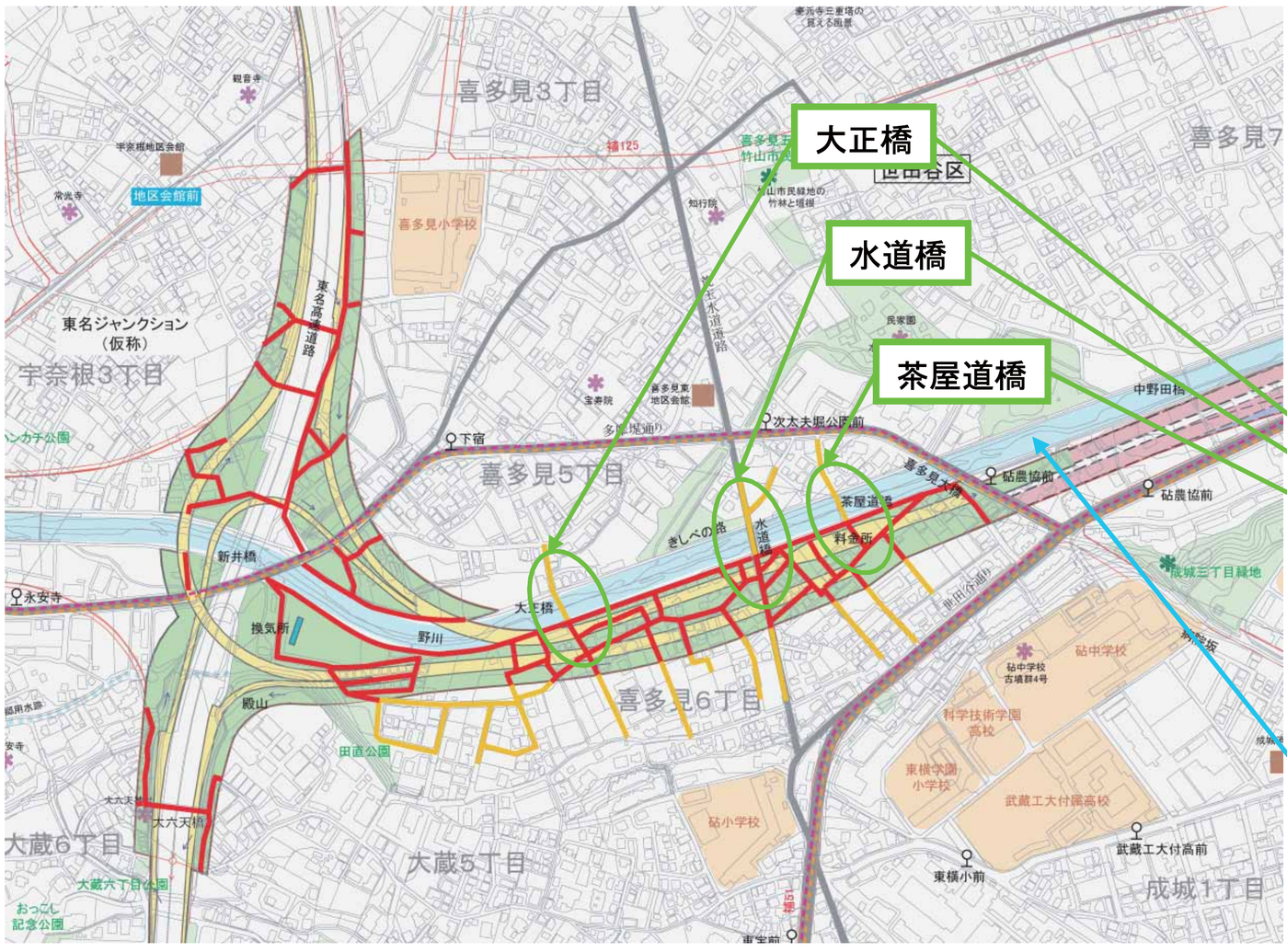
【周辺道路の状況の把握】

●周辺道路の状況（車線数、幅員、歩道の有無、バス路線等）を把握しました。

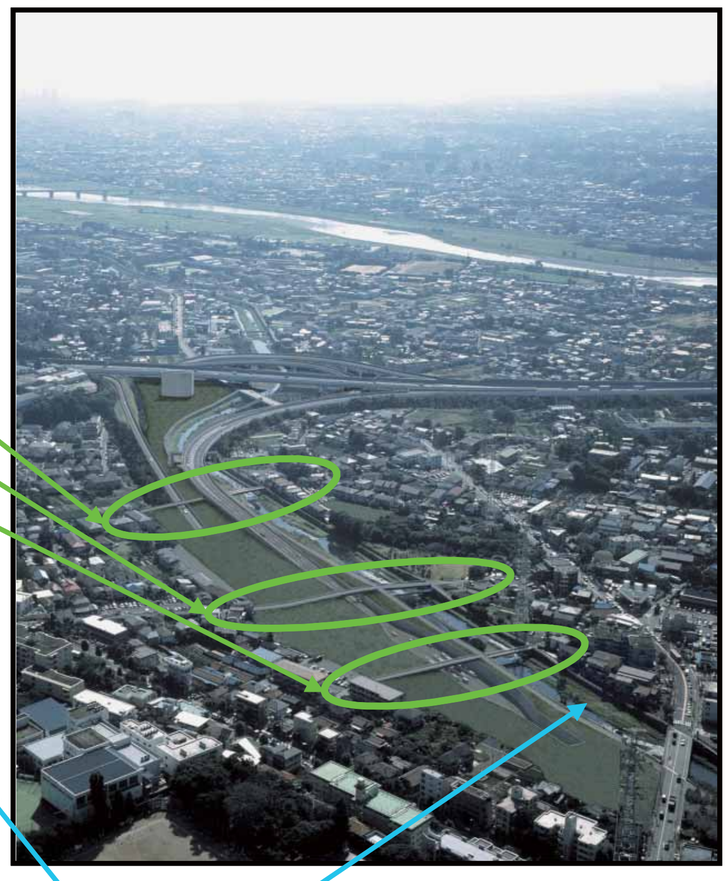
【野川に架かる橋】

●東名ジャンクション部の事業実施に伴い、野川に架かる大正橋、茶屋道橋、水道橋や喜多見地区など現況のコミュニティに影響が生じる箇所については、環境施設帯などを活用した分断道路の機能を補完する道路を確保できるよう検討しています。

【周辺道路の状況の把握】



【検討の一例】



検討の基本方針

●通学路や生活動線の現状を把握した結果を基に環境施設帯を活用し、現状の機能を補完する道路計画を検討します。

●また、地域の皆様の意見を聴きながら地域特性や世田谷区の「東名ジャンクション周辺地区街づくり方針」に配慮した道路計画とするように、東京都や世田谷区とともに検討を進めます。

〔ジャンクション・インターチェンジ名称は仮称、供用区間は除く〕